

農林水産大臣賞

生田地域活性協議会（淡路市）



そばカフェ生田村のメンバー



「真っ白なそばの花」の風景
と本格手打ちそば

（概要）

（１）むらづくりの動機・背景

生田集落では、少子高齢化と過疎化の対策として、集落全員が参加する地域活性化の取組を目標に掲げ、うどん文化圏の淡路島では珍しい“真っ白な花を咲かせるそば”に着目して、中山間地域等直接支払制度の景観形成作物として栽培し、花の季節には非農家を含めた集落全員が参加するイベント等を実施することとした。元々淡路島は水利の異なる集落が共同活動に取り組むことが難しい土地柄であるが、農地・水保全管理支払交付金制度への参加を契機に水利を越えた話し合いの場が生まれ、旧生田村の3集落の共同のシンボルとしての“水車”の復元の機運が高まり、それを実施するための「農水会」組織を結成した。この組織の合意により地域活性化イベントが成功し、地域から継続的な開催を望む声が高まったため、平成19年9月に「農水会」を母体に「生田地域活性協議会」が設立された。

（２）むらづくりの内容

- ・生田地域活性協議会を結成して以来、以前からの「集落全員が参加する取組」を目標に掲げ、淡路島では珍しい“そばの花”を生かした地域活性化イベントを、非農家を含めた集落全員が参加する取組として継続している。
- ・島外の大学生との交流による“よそ者目線”も取り入れ、そばの生産を生かした「そばカフェ生田村」や自然を活用した「ホタルカフェ」及び「交流広場」など、地域の拠点施設として整備したものを十分活用し、住民生活に活気をもたらすとともに、堅実な運営で利益を生み出し、持続可能なものとしている。
- ・河川清掃や農薬使用の低減（ホタルの在来種の保護）、獣害対策としてヤギの導入等、地域環境を守るとともに、都市住民が農村の原風景を体験できる空間づくりに取り組んでいる。